



Via Latina 22

2022年12月 316号

総本部よりのお知らせ－マリア会

メリバ管区での終生誓願式	1
USA管区での管区長任命	2
ローマでのマリアニスト家族世界評議会の会議	3
マリア会の後見枢機卿	4
私たちの創立者の新しい見方はどうでしょう？	5
いのちに奉仕するマリアの宣教者；第33回FMI総会のメッセージ	6
私たちの地球のための祈り	7

メリバ管区での終生誓願式

2022年10月30日(日)、Peter Francis Sennert士はマリア会の清貧、貞潔、従順、そして堅忍の終生誓願を宣立しました。この喜ばしい誓願式典はニューヨーク州 ユニオンデールのケレンバーグ・メモリアル・ハイ・スクールで執り行われましたが、彼はそのマリア会学校共同体のメンバーであり、また教師および黙想会のモデレーターとして活動しています。Peter士の家族メンバーと友人たち、メリバ管区の修道者たち、またオハイオ州 デイトンとニュージャージー州 ケープ・メイからのマリアニストたちが、Peter士の終生誓願に参加するためにこの式に与りました。私たちのマリアニスト学校の協働者とロングアイランドのマリアニスト家族メンバーも出席し、祈りでPeter士を励ましました。Peter士は、彼の多くの生徒たちが自分の誓願式に与り、式典ミサ後の学校食堂での祝賀会とディナーに参加できたことを特によろこびました。



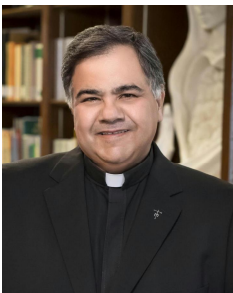
Peter Sennert士、終生誓願を宣立する

メリバ管区の副管区長Thomas Cardone師が誓願式ミサを司式し説教を行いました。管区長Timothy Driscoll士がPeterの誓願を受け入れました。Thomas師は終生誓願のしるしとしてこれから身につける金の指環を祝福しました。

終生誓願の準備として、30日の「サラゴサの精神」の黙想の間、Peter士は「主の仕え女である聖マリアのミサ」のテキストについて何回も黙想しました。Thomas師は主の仕え女としてのマリアと、私たちマリアニストの堅忍の誓願について語りました。彼は誓願式ミサの叙唱を引用しました：「マリアは贖いの秘義の忠実な奉仕者として、あなたの御子の御業に全身全霊を捧げました。キリストへ偉大な奉仕を捧げたマリアは、御父であるあなたによって偉大な栄光を賜りました。」

マリアニストとしてその終生誓願を宣立することで、Peter士はマリアとその御子に対して生涯にわたる忠実な奉仕に全身全霊を捧げるという大きな栄誉を受けます。

USA管区での管区長任命



マリア会総長André-Joseph Fétis師は、総長評議員会の満場一致の支持を得て、Oscar Vasquez師をUSA管区の管区長として2期目3年の任期で再任しました。彼の第2期は2023年8月1日に始まり、2026年7月31日に終了します。この再任にあたり、Oscar師は地理的にも人数的にも管区のあらゆるところから非常に幅広い支持を得ました。

総長評議員会は、Oscar師が管区、マリア会、そして教会におけるこの兄弟的奉仕への要請を謙遜と寛大さで受け入れてくれたことに、深く感謝します。

ローマでのマリアニスト家族世界評議会の会議

2022年11月11日～13日、マリアニスト家族の4つの枝の評議員会のメンバーがVia Latina 22に集まり、会議を行いました。この年次会議は、2つの枝が最近新しい本部を選出したので、特別な出来事でした。FMIは先の7月に行われた総会で新しい総長評議員会を選出し、そして信徒マリアニスト共同体は同じく7月に行われた会議で新しい国際指導者チームを選出しました。それに加え、MLCは（これまで北アメリカに属していた）アジアを新たな独自の地区として創設するのを決めましたので、MLCの新たな国際指導者チームには追加代表として日本から1名のメンバーが含まれることになりました。



会議中のマリアニスト家族世界評議会

SM総長評議員会とアリアンス・マリアルの評議員会と共に、マリアニスト家族世界評議会はこの会議で幾つかの議題を取り上げました。最初に評議員会は、シャミナード国際神学校、校長Miguel Ángel Cortés師によって導かれて、“聖者の民”となる方法について黙想し、祈る時間をとりました。次に、各枝からのニュースと関心事を分かち合った後、評議員会は去年念入りに作成した目標に関連した幾つかの項目について討議しました。これらの項目の内容は次の通りです：①共同養成の機会、②カリスマ的家族、③シノダリティ（共に歩む教会）、④世界評議会の規約の改定です。これらの討議に関する更なる詳細は世界評議会から直接送付されるそれぞれ別の連絡の中で提供されます。



マリアニスト家族世界評議会のメンバー
マリアニスト家族と創立者たちを描く像の前にて

この会議は更に、非公式時間を共に分かち合い、世界中のマリアニストの生活と宣教のため一緒に祈る大変良い機会でした。

マリア会の後見枢機卿

Antonio Gascón師は教皇庁歴史学委員会によって招集された会議に一つの文書を発表しました。その文書の表題は、「調査計画と検究セミナー。修道会の後見枢機卿」でした。この会議は11月8日に開催され、委員会議長のBernard Ardura師（ノルベルティン修道会）によって主導されました。Bernard Ardura師はボルドー、マドレーヌ共同体の会員たちと深い友情を結んでいます。

後見枢機卿はローマ教皇庁のメンバーであり、修道会のための彼らの活動は12世紀以降進展しました。実際、アシジのフランシスコと彼の仲間たちが、カトリック教会と並び立つ教会を設立しようとした、カタリ派とヴァルド派のような、異端の托鉢者のグループであるとの告発に直面して、フランシスコは後見枢機卿を教皇庁に探しました。18世紀まで、後見枢機卿は荘厳誓願の修道会と単式誓願の修道会についての統治、教義上のコントロール、そして経済的管理までも含む機能を担いました。しかしながら19世紀末から、後見枢機卿は象徴的な姿になりました、なぜなら修道者は自分たちの本部をローマに置き始めたからです。そして修道会はその組織の全ての案件（すなわち、会憲、総会の承認、売買に関する許可、誓願の取り消し、など）をローマ教皇庁に関連づける総代理を置きました。

マリア会は歴史上7名の後見枢機卿を有しました。最初はWladimir Czacki枢機卿でした（1884年5月12日）。引き継いだのはPlacido Maria Schiaffino枢機卿でした（1888年5月17日）； Serafino Vannutelli 枢機卿（1888年12月23日）； Vincenzo Vannutelli枢機卿（1916年3月6日）； Bonaventura Cerretti（1930年12月22日）； Pietro Fumasoni-Biondi（1933年7月23日）； Paolo Marella（1960年8月26日）が最後の後見枢機卿でした。彼は1964年までその任に留まりました。教皇パウロ6世はこの後見者の機能をその年に廃止しました。Paolo Marella枢機卿は1984年10月15日に死去するまでこのタイトルを保ちましたが、これは名誉職でした。

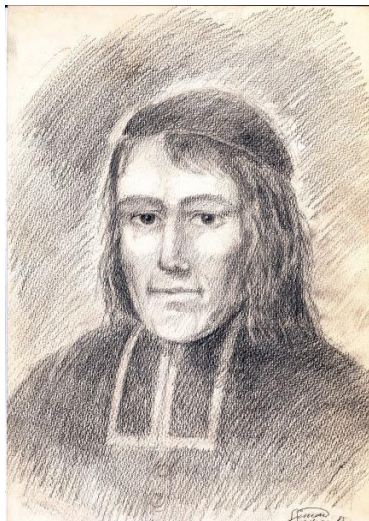
この80年間の後見者の制度において、マリア会総本部は会憲の承認を得るため、ローマにおけるマリアニスト学校の地固めと発展のため、シャミナード神父の列聖調査を前進させるため、マリア会会憲を1917年の教会法の規定に適応させるため、これらの後見枢機卿に代理を務めてもらうことが必要でした。後に後見枢機卿の機能はだいぶ縮小されたので、マリア会総本部資料室は各後見枢機卿のために一つのフォルダを保管し、それらのフォルダは一緒に一つの箱に纏められています。（AGMAR:028.3-9）

Wladimir Czackiは1834年にPoryck（ポーランド）にて生まれました。彼は（1879-1882）パリの教皇大使でした1882年Saint Pudenziana名義（肩書）枢機卿に任じられ、1888年3月にローマで死去し



ました。1884年にマリア会総長Joseph Simler師の要請で、彼はマリア会の最初の後見枢機卿になりました。パリの教皇大使としてCzackiはマリアニストの教育活動を知っていたので、この要請を受け入れたのです。

私たちの創立者の新しい見方はどうでしょう？



私たちが福者Guillaume-Joseph Chaminadeについて人に伝えるそのイメージは、私たちが彼を反対のイメージ、つまり総長職を受け継いだ人々と闘った老人として見ているため、しばしば歪められています。聖霊に導かれて彼が創立した真のマリア会が、彼があずかり知らぬ何か他のものになってしまうように、私たちはこの新しい見方を提案しているのです。私たちはミュンダンの学校から始まった人に、そしてサラゴサでの彼の体験に戻らなければなりません。

福者Guillaume Josephはその時代の人であり、その時代は、彼が正しいものを残し間違いを捨てるために識別して物事を見ることを学んだ啓蒙哲学によって特徴づけられていました。彼はミュンダンで哲学の教師になりました。彼は自分の仕事に熱中し、当時の専門家に会い、彼らから学ぶためその地へ旅するまでに数学と自然科学を深く勉強しました。これは、熱心さが欠けていると彼が感じることになる修道院への訪問とは大変異なるでしょう。

彼は決して夢に耽る人ではなく日常生活に根を下ろしていました。彼は経理担当をしていた時ミュンダンの学校の管理運営を学びました。彼の手紙は多くの分野での彼の有能さを示しています。

若い福者シャミナードはフランス革命によって導入された最初の原則を歓迎しました、しかし彼はすぐにその欠陥に気づき、聖職者市民法に宣誓することを拒みました。

新体制に従うことを誓った司祭たちの和解を委ねられた時、彼の教育、知恵、そして有能さが示されました。後に、彼はバザ教区の管理運営を任せられることになります。彼は、根気強い読書、特に聖書の勉強を通して生涯学び続けた、非常に高学歴の人でした。

サラゴサでの亡命は、彼が世間から身を引くようにし、将来の宣教の準備をさせました。彼が自分の信仰の根幹を深めたのは、間違いなくこのサラゴサでした。その時以来、彼は信仰によって判断し、行動しました。この信仰の土台は彼が生涯を終えるまで継続しました。

使徒的宣教師であり、ボルドーのコングレガシオンの創立者である彼に、非常に多くの人たちを引き付けたのは何でしょうか？彼の沈黙でしょうか？違います！福者シャミナードは、語る人、人を温かく迎え入れる人、助言する人でした。Lalanne師は書いています；「彼の心は自分の考えの深さを理解しようと努めているので、それらの考えに夢中になっているために、彼はゆっくりと詳しく話

しました。彼はこれらの考えを説明するため長時間語る強い性向がありました。彼は聞き手が全てをよく理解するのを確実なものにしたかったので、こうなったのです」。とはいえ、私たちはLalanne師が生き生きとダイナミックに表現する人であったことを知っています。ですから、私たちは福者 Guillaume-Josephに関する彼の言葉を解釈するうえで抑制が利いていなければなりません。いずれにせよ、私たちは多くの人々によって描かれた沈黙の人からは遠いところにいるのです。事実、人々を神へと惹きつけ導く彼の秘密は、信仰によってのみ行動するその優しさ、謙遜、そしてまたその堅固さの中に見ることができます。私たちはこのことを多くの著作の中に見いだします。例えば、次の言葉は、困難に直面する修道者について彼が与える助言です。「もし困難に直面する修道者が間違っ導かれるなら、次のような主題はわからなくなります。《厳格さと優しさ、宗教と友情をミックスしたものを持つことが必要である》。このような主題に導くことは非常に困難です。これらの質を獲得するのは容易ではありません」。

非常に多くの人たちのための道案内者として選ばれたこの人は、優れた心理学者でした。彼の甥の息子Firmin Délalaが自分なりのやり方で書き残しているように、シャミナード師は人々を知り、また彼らが必要とするものを知っていました。彼は次のように書き残しています：「シャミナード師のアーモンド形の切れ長の目は鋭く、綺麗で、全てを見通していました。彼の真実を見いだそうとする視線はあなた方の心にある考えを見抜きました：彼はその人がどんな人か、またその人の誠実さがどれほどかを判断しました。もし彼がフェンシングを学んだとしたら、聖ゲオルグを超えていたことでしょう！」

私たちの創立の父に戻るすべを知りましょう、彼に信頼しましょう、そして信仰のうちに聖性の道を優しさ、謙遜、そして堅固さを持って進みましょう。

いのちに奉仕するマリアの宣教者； 第33回FMI総会のメッセージ

2022年7月10日から31日にかけて、FMIはローマで第33回総会を開催しました。総会は「統合的エコロジー」というテーマを中心とし、このテーマがFMI姉妹たちの考察の主要部分を占めました。他の2つの重要なテーマも討議されました。その一つは、修道会の生活の現実に統治の構造を適応させることでした。他の一つは、創立の場所としてのアジャン共同体の国際的な活性化についての考察でした。FMIの総会の終結に当たり、代議員たちは、修道会全体の名において、「ラウダート・シー行動綱領に参加する決意表明」を行いました。この表明は総会文書で見ることができます。これはマリアニスト家族全体にとって刺激の源です。

第33回FMI総会のマリアニスト家族へのメッセージを歓迎しましょう。そしてまた、皆さんが以下に見る資料全体によって刺激を受けましょう：

マリアニスト家族へのメッセージ ([英語](#)・[仏語](#)・[西語](#))

総会文書 ([英語](#)・[仏語](#)・[西語](#))

いのちに奉仕するマリアの宣教者として全てのマリアニスト姉妹方に幸運を祈ります。

私たちの地球のための祈り



教皇フランシスコの回勅「ラウダート・シ」よりの抜粋
「ラウダート・シ」LS 246, 201

おお、貧しい人々の神よ、
あなたの目にはかけがえのない
この地球上で見捨てられ、忘れ去られた人々を救い出すため、
わたしたちを助けてください。
世界を貪るのではなく、守るために
汚染や破壊ではなく、美の種を蒔くために
わたしたちのいのちをいやしてください。
貧しい人々と地球とを犠牲にし利益だけを求める人々の
心に触れてください。
それぞれのものの価値を見いだすこと、
驚きの心で観想すること、
あなたの無限の光に向かう旅路にあって
すべての被造物と深く結ばれていると認めることを、
わたしたちに教えてください。
日々ともにいてくださることを、あなたに感謝します。
正義と愛と平和のために力を尽くすわたしたちを、
どうか、勇気づけてください。



総本部共同体とシャミナード国際神学校共同体は全ての兄弟姉妹たち、彼らの協力者たち、そして彼らの家族に対してご生誕の喜びと幸多い新年2023のご挨拶を申し上げます！

最近の総本部通信

- 計報：35号
- 11月22日：2022年11月15日の拡大総長評議員会の反響、3か国語で総長からゾーン議長と行政単位の上長に送付
- 11月25日：2022年10月18－19に行われたマリアニスト教育活動についてのズーム会議のフォローアップ、3か国語で教育局長Maximin Magnan士から全マリア会修道者あて送付

総本部日程

- 12月1日－20日：総長評議員会のメリバ管区訪問

メールアドレス変更

- Alvin McMenamy 師 (US) : amcmenary@stmarytx.edu